



かさかえで 傘 楓

平成26年
歳末号

副住職 本山での生活

テレビのニュースを観ていましたら、最近「**献体**【医学の発展のために、死後に自分の肉体を解剖学の実習用教材として提供する】と」を申し込まれるひとり暮らしの老人が増えたそうです。理由は、病院にもよるでしょうが、葬儀や納骨等の亡くなった後の一切を面倒みしてくれるからだそうです。「家族に迷惑をかけたくないから」とインタビューに答える老人が映っていました…

いつから人が亡くなるのが迷惑になったのでしょうか？

お釈迦さまの教えに「**長生まますすむ**とは、「**三失**を伴う」という考えがございます。三失とは、歳を重ねることは喜ばしいことではあるが同時に三つの大切なものを失うことにつながり、一つは退職や引退でわかるとおり、まずは「**仕事**」を失うことです。次は体の衰えからくる「**健康**」を失い、最後は仏教の教えでも一番の苦しみである「**愛別離苦**」、つまり「愛する家族や友人」を失って別れなければならぬことを経験しなければならぬ、とござうことです。

また一休禅師の詠まれた一句に「**門松は 冥土の旅の 一里塚**めでたくもあり めでたくもなし」がございます。これも我々が「正月が来た」と浮かれていますけども、年を越すということは同時に死がまた一つ近づいていることを忘れずに…と戒めている訳です。

悲しい「人の儂さ」を説いたお言葉に、納得せざるを得ません。

さて、私がご本山での生活で一番印象に残ったことは、ご本山のお檀家さんの葬儀の導師を勤めた時の事です。お通夜の時にはケロツとしていたお孫さんが火葬出棺の時に「おじいちゃん！いやだ！」と連呼してポロポロ涙を流して別れを悲しみ、故人の喪主を務めている父親を散々困らせていました。見ている私も切なくなり、また同時に、よほど孫を可愛がったのだろうと、故人のお人柄を偲ぶ機会となりました。

三失の教えからもわかるとおり、長生きには長生きなりの苦しみがあり、家族愛に育まれた家庭にはより別れがたくなる苦しみが、あり、年を越すことにはまた死が近づくといつた無常の苦しみが、あります。

ただ、だからと言って我々は生きることを諦めることはできません。むしろ、そうであるからこそ今ある命に感謝して生きていくのです。

家族と離れて暮らす「愛別離苦」の苦しみの中に、今まさに私が置かれていたとしても、ご本山に出仕できるのは、**住職が健在である**「今」しかないのです。

私は、与えられた機会を精一杯頑張つて生きる大切さを、そして家族が元気でいる有り難さを、ただいま学んでいる最中です。

そして、ご本山で仕事をして、家族に少しでも楽な暮らしを与えられることができるのですから、多少のつらさもへっちゃらです。

そもそも、私が仕事の大切さや働けることができる有難味というもの、を真剣に感じることができるようになったのは、情けない話ですが、娘が生まれてからです。

子どもを養つことに、当然負担に感じる人もいるとは思いますが、『迷惑』とは感じないはず。だって、子どもが親に迷惑をかけるの

が「当たり前」なのです。いつのまにか「当たり前」を当たり前と受け入れる心持ち」が現代は欠けているような気がします。

人が生まれたら死ぬのが当たり前、好きな人と別れるのがとても悲しいのが当たり前、お金は使えばその分無くなるのが当たり前、子どもはうるさいのが当たり前、そして実家や故郷に戻ればすくなく安心するのが当たり前、楽しい気持ちでお酒を飲めばもつと楽しくなるのが当たり前、気の合う仲間や友人と過ごす愉快になるのも当たり前、人はさまざま「当たり前」の中で喜怒哀楽を享受して生きてゆくものなのです。

人は年老いていけば自力ではうまく生活が出来ず、家族や友人の助けが必要になり、そしてこの世を去っていくのが当たり前であり、それによって『**死**』や『**老い**』や『**病**』という**苦しみがこの世には存在し、その苦しみからは絶対に逃れることができないのだよ。だからこそ今ある命に感謝して精一杯生きていくことが大切なのですよ。**』と、次の世に教え伝える人生最後の大切な仕事なのです。

死が迷惑とか苦しみとだけ考えるのであれば、人は必ず不幸で終わる存在となってしまいます。もつと心を柔らかく気楽な気持ちで、「当たり前」の精神で精一杯生きてやりましょう。

私も今与えられたご本山の仕事で精一杯勤めながらも、柔和に過ごしてまいります。

副住職不在で、お檀家の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、今少し慈光寺を留守にすることを許し頂きたく存じます。合掌

(副住職 高谷 大悟)



世ほん 施本のススメ

仏教のお教えにもっとふれましょう

本堂に上がって右側、皆様が法事で使う花瓶やお供物用のお盆のそばに「施本」をおいてあります。

施本とは「お寺から檀信徒やお参りにきた方にお渡しする小冊子」のことです。

日常生活に生きる仏教の考え方やお教えが、わかりやすく書いており、小さくてカバンにも収まるサイズです。病院での待ち時間、バスや電車での移動時間や家事の合間などに少し読んでみませんか。

もちろん無料ですので、ご興味のある方はぜひご自由に手に取ってお持ち帰りください。

きっと読み終わったとき、心が少し安らかで豊かになるかと存じます。

なお、近くにご本山からの施本「遊行」と「数珠入れ」慈光寺の

「絵葉書」も置いてま

すので、そちらもご自由にお持ち下さい。



寄付紹介

● 玉鱗工一尺八寸 木魚

東 久子様（生出町地区）

亡き旦那さまとご先祖さま

への追善供養としてご寄付

賜りました。立派な大ききで、

その音色も本堂中に響きます。

お名前を木魚に刻み、これか

らも大切に使用させていただきます。



● 黒塗 移動式 祭壇

千葉 享様（市外）

本堂でのお檀家さんのご葬儀の際に利用させて頂いております。

今まで使っておりました祭壇

が老朽化で難儀しておりました

が、今回ご寄付頂いた祭壇は滑車

も付いて移動も簡単で、黒塗りが

重厚で素晴らしい仏具です。

現在、本堂でのご葬儀を行う場

合は以前ご寄付頂いた椅子でのご会葬も可能になり、足の不

自由な方にもたいへん喜んで頂いております。

最近はお葬場で葬儀一切を済ませる方も増えましたが、やはり菩提寺の本堂で故人を葬送することも大切かと存じます。



● 境内清掃及び雑草刈り払い奉仕

シルバー人材派遣センター有志様

高砂・新町・森・溪流老人クラブ様

本堂前の賽銭箱が盗まれました

今年6月に本堂前のお賽銭箱ごと盗まれました。

せっかく足の不自由な方々も本堂内に入らなくても、

お参りができるようにと山口地区の藤森喜代松さんが

寄贈してくださった立派なお賽銭箱だっただけに、非常

に悔やまれます。そして、皆さんから預かった想いのこ

もったお賽銭を守れなかったことを大変申し訳なく思

っております。

現在は、防犯カメラも設置し、新たに仏具屋でお賽銭

箱を新調しましたので、今後はこのようなことはない

存じますのでご安心下さい。

お釈迦さまのお言葉で「田畑は雑草によって害われ、

世の人々の心は欲求によって害われる」が示す通り、

きっと盗んだ人の心は雑草だらけだったのでしよう。

これを教訓として、我々も部屋だけではなく、自分の

心も少し掃除をしてから新年を迎えることを忘れない

ようにしましょう。

ご家族おそろいで、穏やかな新年を迎えられますよ

うお祈り申し上げます。

慈光寺からのお知らせ

法事の際の生花も

お墓にお供えしてあげて下さい。

これからは法事終了後に生花をお返し

致しますので、お塔婆と共にお墓に

お供え下さい。合掌

